

RFS審査会合コメント整理表（平成31年2月14日審査会合以降）

No.	ご指摘日	コメント内容	対応要否	対応状況 / 否の理由	備考
1	平成31年2月14日 (第260回審査会合)	平成31年2月6日第60回原子力規制委員会です承された審査方針「貯蔵建屋が損傷した場合においても基本的安全機能が損なわれるおそれがないことの説明を求める」に従って、対応すること。	○	審査会合で説明予定	津波 No.14～19, 25,28,29
2	平成31年4月24日 (第272回審査会合)	受け入れ条件として容器の輸送要件を経たものであることを、事業許可申請書に記載すること。	○	事業変更許可申請書の補正時に反映する (纏め会合等で説明)	その他 No.11
3	平成31年4月24日 (第272回審査会合)	過度な保守性を排した現実的な評価で、建屋がなかった場合の敷地境界線量を示すこと。	○	審査会合で説明予定	実態評価 No.20
4	平成31年4月24日 (第272回審査会合)	設計評価事故の想定事象として、「使用済燃料の誤収納」等の発電所における取り扱いに起因する事象は、記載不要。(健全なキャスクが受け入れられるということが前提なので、発電所側での話はRFSの許認可で一切関係ないので不要)	×	RFSでの貯蔵期間中に影響を及ぼす可能性のあるものとして評価しているものであり、記載あって悪いものでないため、対象外	その他
5	平成31年4月24日 (第272回審査会合)	火災感知器について不感帯があるかを説明すること。	○	審査会合で説明予定	その他
6	令和元年5月20日 (第275回審査会合)	建物がない場合に、金属キャスクが竜巻や外部火災等によって、どのような影響を受けるのかを評価すること。	○	第293回審査会合で一部説明済。コメント No.21～24等の反映版を審査会合で再説明 予定	実態評価No. 21～24
7	令和元年5月20日 (第275回審査会合)	火山降灰時の影響評価として、給排気口を閉止し火山灰を侵入させないような対応をするのであれば、給排気口を閉じた場合にどれ位の時間的余裕があるのかを示すこと。	×	火山降灰時に給排気口の閉止で対応しないので、対象外	その他
8	令和元年5月20日 (第275回審査会合)	圧縮空気供給設備を受入れ設備の一部として事業許可申請書本文へ記載することを検討すること。その際、過圧防止対策や運搬中の電源喪失時の圧力低下等に対する安全対策の追記も検討すること。	○	審査会合で説明予定	その他
9	令和元年5月20日 (第275回審査会合)	廃棄物貯蔵室内の微量漏洩をパトロール等で検知するのであれば、その旨を申請書に記載すること。また、廃棄物貯蔵室内に設置している漏えい検知装置は、必要な設備なのか。その他の設備も含めて、本来必要ではなく過剰な設備設計になっていないか確認すること。	○	審査会合で説明予定	実態評価
10	令和元年5月20日 (第275回審査会合)	(遮蔽評価が厳しいのであれば、)受け入れ条件をRFSで設定することを検討すること。	×	現状の受け入れ条件で、貯蔵建屋を考慮した敷地境界の実効線量が $50\mu\text{Sv}/\text{年}$ を下回るため、対象外	その他 No.13
11	令和元年5月20日 (第275回審査会合)	国の運搬物確認を経たものを受け入れ条件とすること等によって、審査や後続の設工認、使用前検査を合理化できないか検討すること。	×	合理化については、新規制基準への適合性審査とは切り離して検討していくため、対象外	その他 No.2
12	令和元年6月17日 (第283回審査会合)	火山に係る事業許可申請書の記載について、モニタリング目的と対処例の記載を改めること。	○	事業変更許可申請書の補正時に反映する (纏め会合等で説明)	その他
13	令和元年6月17日 (第283回審査会合)	燃料の冷却期間や燃焼度が遮蔽評価にずいぶん影響していると思われるため、実態の受け入れを踏まえて評価すること。	×	現状の受け入れ条件で、貯蔵建屋を考慮した敷地境界の実効線量が $50\mu\text{Sv}/\text{年}$ を下回るため、対象外	実態評価 No.10
14	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	貯蔵区域建屋外壁のFEM解析で、外周の境界条件を固定条件として扱っていることについて、天井や屋根が動かないことを定量的に示すこと。	○	審査会合で説明予定	津波 No.1

No.	ご指摘日	コメント内容	対応要否	対応状況 / 否の理由	備考
15	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	建屋損傷時の落下物による密封影響評価をLS-DYNAを用いて評価することの妥当性を説明すること。	○	LS-DYNAを用いた評価とは異なる観点で説明予定。	津波 No.1
16	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	縦置き状態で緩衝体と3次蓋がない状態で、2次蓋に落下する場合の影響を評価すること。	○	LS-DYNAを用いた評価とは異なる観点で説明予定。	津波 No.1
17	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	横ずれ量判定基準の妥当性を説明すること。	○	LS-DYNAを用いた評価とは異なる観点で説明予定。	津波 No.1
18	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	弾性変形であっても閉じ込め性に有意な影響がないかを説明すること。	○	LS-DYNAを用いた評価とは異なる観点で説明予定。	津波 No.1
19	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	架構鉄骨が落下しトラニオンが損傷して金属キャスクが架台から落下した場合の収納物の健全性を説明すること。	○	LS-DYNAを用いた評価とは異なる観点で説明予定。	津波 No.1
20	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	過度な保守性を排除した現実的(合理的)な敷地線量評価では、線量告示や放射線審議会等で推奨しているものまでを変える必要はない。	○	審査会合で説明予定	実態評価 No.3
21	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	建屋なし外部事象影響評価において、計算で求めた数値を記載しているところについては、その計算内容についても記載すること。	○	審査会合で説明予定	実態評価 No.6
22	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	建屋なし外部事象影響評価において、搬送中等でキャスクが固定されていない状態のキャスクについても影響評価すること。	×	RFS 施設は建屋により金属キャスクを防護し、建屋なし外部事象影響評価は参考評価であるため、対象外	実態評価 No.6
23	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	建屋なし外部事象影響評価において、土砂が流れ込んだ場合の評価も追加すること。	○	審査会合で説明予定	実態評価 No.6
24	令和元年7月29日 (第293回審査会合)	建屋なし外部事象影響評価において、森林火災の説明については、ブロック塀を設置することで対応できる旨の説明でもよい。	○	審査会合で説明予定	実態評価 No.6
25	令和元年8月21日 (第297回審査会合)	受け入れ区域の損傷に伴う架構鉄骨の落下については、影響緩和措置等を検討すること。	×	自主的に検討する	津波 No.29
26	令和元年8月21日 (第297回審査会合)	これまでの審査会合において出された規制庁側からのコメントへの回答については、今後、事業者側から回答が必要なもの unnecessaryなものを整理して提示すること。	○	審査会合で説明予定	全般 No.1~25
27	令和元年8月21日 (第297回審査会合)	今後の説明についてどのような内容をいつ頃説明するのかについて、次回の会合でまとめて説明をすること。	○	審査会合で説明予定	全般 No.1~26, 28, 30
28	令和元年10月21日 (第307回審査会合)	金属キャスクからの放射性物質の漏洩を仮定した場合に十分な保守性を考えて線量評価することも検討すること。	○	審査会合で説明予定	津波
29	令和元年10月21日 (第307回審査会合)	落下物の影響が軽減できるような何らかの措置、例えば架構鉄骨に緩衝材を付ける様な措置も自主的に進めること。	×	自主的に検討する	津波 No.25
30	令和元年10月21日 (第307回審査会合)	これまでの審査会合で出た規制庁からのコメントで未回答なものが残っていないかどうか、或いは、条文毎の全体像をきちっと示すことについて、早急に準備を進めること。	○	審査会合で説明予定	全般 No.26,27

 : 纏め会合等で説明
 : 自主検討
 : 対象外

備考欄 : No.は当該資料内の関連コメントNo.